

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県美術館
所在地	長崎市出島町2番1号

事業所管	文化観光国際部	文化振興課
課（室）長名	村田 利博	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	2	交流を支える地域を創出する
	施策	(2)	文化・スポーツによる地域活性化
	事業群	(1)	文化・芸術による地域づくり

2. 施設の概要

設置年月日	平成 17 年 4 月 23 日						
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日）						
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。						
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）						
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー						
施設の利用料金体系	〔常設展利用料金〕						
		一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	○免責事項 ※県内在住の小・中学生は無料 ※障害者手帳、特定医療費（指定難病）医療受給者証等の提示及び介護者1名は無料 ※学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲・ろう・養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料
	普通観覧料金	420円	310円	210円	310円		
	団体割引料金	340円	250円	170円	250円	15名以上	
	〔貸館利用料金〕						
	名称	面積（㎡）	利用料金 （入場料無料の場合）			備考	
	県民ギャラリー	940	34,390円/日				
	運河ギャラリー	170	3,030円/日			※入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍	
	ホール	210	6,810円/回			※入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり	
	講座室	70	2,720円/回				
	運河劇場	330	1,040円/回				
	屋上庭園	1,200	6,390円/回				
類似施設の設置状況	施設名		岩手県立美術館	島根県立美術館	富山県美術館		
	入館料	一般	410円	300円	300円		
		大学生	310円	200円	無料		
		高校生以下	無料	無料	無料		
	利用者数（R1実績）		382,479人	268,616人	616,498人		
	指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成17年4月1日	平成18年4月1日		
	管理運営負担金（R2予算）		413,469千円	312,793千円	非公表		
	延床面積		13,000㎡	12,498㎡	14,990㎡		
指定管理形態		管理（学芸部門は委託）	管理（学芸部門は直営）	管理（学芸部門は直営）			
県算	区分 （単位：千円）		平成28年度 （実績）	平成29年度 （実績）	平成30年度 （実績）	令和元年度 （実績）	令和2年度 （計画）
	財源	国庫					
		その他（諸収入、繰入金）	353,624	353,524	347,865	351,032	355,427
	予	一般財源	5,384	4,857	10,000	10,000	10,000
		事業費＜A＞	359,008	358,381	357,865	361,032	365,427
	内訳	管理運営負担金	342,035	342,035	342,035	345,202	348,369
		その他（特別経費負担金等）	16,973	16,346	15,830	15,830	17,058
	人件費＜B＞		16,084	16,092	15,944	15,908	15,950
合計＜C=A+B＞		375,092	374,473	373,809	376,940	381,377	
単位あたりコスト		1	1	1	1	1	
（説明）「当事業による入館者1人あたりの運営費用」= C ÷（入館者数）							

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	《所在地》 長崎市出島町2番1号		
	《名称》 公益財団法人長崎ミュージアム振興財団		
	《代表者氏名》 中牟田 新一		
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
業 務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） ③美術館のマネジメント（集客、営業、PR、イベント企画、ボランティアの活用等） ④ミュージアムショップ、カフェの経営		
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法 ■ 公募 非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	① 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数		（目標値の根拠）		＜令和2年度実施における変更点＞		
	② 来館者満足度		①博物館・美術館で5年間で県内全市町（21市町）で実施を目指す。				
	③ 県民ギャラリー稼働率		②アンケート5段階評価における年間平均において、80%以上の満足度を目指す。				
④ 美術館入館者数（参考値）		③90%以上の稼働率を目指す。					
実 績		平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（計画）	
単 位							
①	a 目標値	市町	5	5	5	5	
	b 実績値	市町	9	5	6	5	
	c 達成率(b/a)	%	180	100	120	100	
②	a 目標値	点	4.0	4.0	4.0	4.0	
	b 実績値	点	4.2	4.3	4.3	4.4	
	c 達成率(b/a)	%	105	107	107	110	
③	a 目標値	%	90	90	90	90	
	b 実績値	%	100	99	98	98	
	c 達成率(b/a)	%	111	110	108	108	
④	a 目標値	—	—	—	—	—	
	b 実績値	人	371,897	346,736	391,547	384,323	
	c 達成率(b/a)	%	—	—	—	—	
指定管理者の収支状況	事業計画 (R1)		平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（計画）
	(千円)	実績-計画					
利用料金	82,217	5,503	65,329	54,269	44,001	87,720	19,747
県負担金	342,035	3,167	342,035	342,035	342,035	345,202	348,369
その他	255,501	31,550	100,587	112,127	106,271	287,051	29,595
収入計(a)	679,753	40,220	507,951	508,431	492,307	719,973	397,711
支出(b)	671,865	44,549	516,646	507,787	503,161	716,414	394,617
うち人件費	123,505	11,425	116,500	119,378	124,923	134,930	127,823
収支(a-b)	7,888	▲ 4,329	▲ 8,695	644	▲ 10,854	3,559	3,094
配置職員数(人)	常勤 25 非常勤 0	常勤 0 非常勤 0	常勤 23 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	常勤 24 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0

※この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものとしては、「2 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 令和元年度事業の実施状況・実績の検証

計 画	実 績
<p><指定管理者実施分></p> <p>①美術館の管理運営業務</p> <p>②調査研究業務</p> <p>③他の美術館、博物館との連携事業</p> <p>④生涯学習、教育普及事業</p> <p>⑤アートボランティア事業</p> <p>⑥広報マーケティング事業</p> <p>(利用料金、その他自主事業)</p> <p>⑦常設展事業</p> <p>⑧企画展事業</p> <p>⑨施設貸出事業</p> <p>⑩ショップ・カフェ事業</p> <p><県実施分></p> <p>①施設や備品の修繕業務等</p>	<p><指定管理者実施分></p> <p>①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。</p> <p>②収蔵作品に関する調査研究、保存修復に関する調査研究、展覧会企画に関する調査研究、生涯学習支援に関する調査研究、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。</p> <p>③釜山市立美術館との相互ワークショップ事業を実施した。</p> <p>④学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、10,040人が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(島原市、雲仙市) テレビ会議システムを利用して遠隔地の小中学校と遠隔授業を実施した(小値賀町)</p> <p>⑤103名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般に渡るボランティア活動を実施した。</p> <p>⑥展覧会やイベント毎にプレスリリースを配信し、取材誘致を行った。 HPへのアクセス数は825,404件(前年度比126%)であった。企画展へのアクセス数が多く、次にイベント、コレクション展が多い。企画展では特にJ0J0展へのアクセス数が多かった。 またメルマガの配信やツイッター、インスタグラムの活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的かつ確実に新しい情報を発信した。</p> <p>(利用料金、その他自主事業)</p> <p>⑦令和元年度は長崎ゆかりの作家の小企画展として、明治から昭和初期に活躍した日本画家・荒木十畝の個展、長崎の風景を描いた現代作家・津上みゆきの個展を開催した。その他にも収蔵名品展や須磨コレクションなど工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。 入場者数は90,940人(計画比182%)となったが、これはJ0J0展の期間中、無料開放したことによるものが大きい。</p> <p>⑧年度後半の「ボルタンスキー展」「J0J0展」は好調であったが年度前半の「バルセロナ展」「コナン展」が伸び悩んだため、総入場者数は114,734人となった。(計画比95.6%)(←R元年度企画展の総入場者数目標は120,000人)</p> <p>⑨県民ギャラリー、ホール・講座室等の利用促進に努めた。 県民ギャラリーでは56展覧会、延べ展示日数347日(稼働率98%)の利用となった。県民ギャラリー等の利用者数は151,185人であり、全入館者数の39%を占めている。</p> <p>⑩ショップ事業は増収増益となった。要因はJ0J0展の大型特設ショップの影響によるもので、過去最高の売上高を計上した。カフェ事業は長崎県産食材、有機野菜にこだわった、おにぎりプレート、パスタなどの開発・提供を行い、満足度の向上は図れたが、開発コスト増や新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月2日から自主休業を行ったため、赤字となった。</p> <p><県実施分></p> <p>①電話設備や入退室管理システムの各種修繕を実施した。</p>
検 証	
<p>○年間入館者数は384,323人で「館目標」の360,000人を上回り、来館者の満足度も87%と目標の80%を上回ることができた。</p> <p>○企画展事業については、年度後半の「ボルタンスキー展」「J0J0展」は好調であったが、年度前半の「バルセロナ展」「コナン展」が伸び悩んだため、総入場者数は114,734人となった。(計画比95.6%)(←R元年度企画展の総入場者数目標は120,000人)</p> <p>○常設展事業では、長崎ゆかりの作家の小企画展として、明治から昭和初期に活躍した日本画家・荒木十畝の個展、長崎の風景を描いた現代作家・津上みゆきの個展を開催した。その他にも収蔵名品展や須磨コレクションなど工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。</p> <p>○県民ギャラリーの稼働率は98%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は151,585人と全入館者数の39%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。</p> <p>○経営面では第4四半期に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けつつも3,559千円の黒字となった。</p>	

管理運営の状況

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入(a)	679,753	719,973	
負担金	342,035	345,202	3,167千円増はR1.10の消費税増税によるもの
利用料金	82,217	87,720	常設展事業は7,8月の来場者減少等により収入減。企画展は第3四半期の展示会が好調であったことと、第4四半期は新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、一定の入場者数は確保できたため収入増
うち常設展収入	7,221	4,073	
うち企画展収入	64,808	74,582	
その他	255,501	287,051	ショップ事業はJ0J0展の大型特設ショップの影響によるもので、過去最高の売上高を計上した。一方、カフェ事業は収入の伸び悩みや新型コロナウイルス感染症の影響等により収入減
うちショップ収入	191,588	223,934	
うちカフェ収入	21,888	16,843	
支出(b)	671,865	716,414	
負担金	342,035	345,202	
うち施設管理維持費	11,925	12,709	
利用料金	129,602	132,684	企画展事業でボルタンスキー展やJ0J0展で支出増
うち常設展支出	12,129	12,991	
うち企画展支出	117,473	119,693	
その他	200,228	238,528	ショップ事業で、J0J0展特設ショップ外部委託費が増加し支出増
うちショップ支出	175,810	220,815	
うちカフェ支出	21,418	21,786	
収支(a-b)	7,888	3,559	

収支の状況

<県実施分>

検 証

○収入の部⇒当初予算比40,220千円の増

□常設展・企画展観覧料収入は、さらに上積みが見込まれたが、新型コロナウイルス感染症の影響により6,626千円の増にとどまった

□ショップ・カフェ収入もさらに上積みが見込まれたが、同様の理由で27,301千円の増

●支出の部⇒当初予算比44,549千円の増

■常設展・企画展事業はボルタンスキー展やJ0J0展の支出増により3,082千円の増

■ショップ・カフェ経費は、売り上げ増に伴う仕入費用の増加とJ0J0展販売委託費用の増加に伴い45,373千円の増

以上により、収支は計画比4,329千円マイナスの3,559千円の黒字にとどまったが、前期は赤字であり、新型コロナウイルス感染症の影響下、黒字に回復しており健闘したといえる。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

A

(説明)

○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。

○年間入館者数は384,323人で「館目標」の360,000人を上回り、来館者の満足度も87%と目標の80%を上回った。

○県民ギャラリーの稼働率は98%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は151,585人と全入館者数の39%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。

○経営面では新型コロナウイルス感染症の影響により当初の計画に及ばなかったものの、黒字を計上した。

6. 令和2年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容

○令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた企画展の多くが中止・延期されたが、館所蔵品に改めて光を当てた拡大常設展「くらべてみれば、みえるもの。」や、当館の設計者である隈研吾の企画展等を開催することで優れた美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、財務面についても運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。

○新型コロナウイルス感染症に対応するために「新しい生活様式」や業界のガイドラインに沿った館運営を行っていく。

○収益事業であるショップ・カフェ事業についても新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一時休業や時短営業を実施しているが、カフェについてはテイクアウトメニューの充実を図るなど新たな取組を行うことで収入の減少に少しでも歯止めをかけた。

○助成金の追加申請及びマスクと連携して新たな協賛金を獲得するとともに、地元事業者や長崎進出事業者からの法人会員獲得を図ることで、新たな自主財源の確保を目指す。

7. 令和2年度事業の評価 ※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

視点		評価	判定理由
指定管理者の行う管理運営等に関する評価	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた企画展のほとんどが中止になったが、館の所蔵品に改めて光を当てた「くらべてみれば、みえるもの。」を臨時休館中に急遽企画し、県民に芸術に触れる機会を提供している。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質の向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	・施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	・新型コロナウイルス感染症により、貸館のキャンセルが生じているため、通常は行わない追加の利用募集を不定期に実施しており、一定の効果は上がっている。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	・全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。
(その他の観点)			
視点		評価	理由
施設の在り方についての評価	必要性 ・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない	入館者アンケートによると、入館者に占める県民の割合が平成30年度が1,002人中86%、令和元年度が1,014人中を79%を占めており、必要性は十分ある。
		b. 一部薄れている	
		c. 薄れている	
	・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	■ a. 適応している	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
		b. 一部適応していない	
		c. 適応していない	
	・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	■ a. 適当（可能）でない	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
		b. 一部適当（可能）でない	
		c. 適当（可能）である	
	効率性 ・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	■ a. 得られている	令和元年度総入館者数は館目標を約7%上回っており、全国の都道府県立美術館の中では高い入館者数を維持している。
		b. 一部得られている	
		c. 得られていない	
・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。	
	b. 一部代えられない		
	c. 代えられる		
有効性 ・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている	適正な施設管理を行っており、成果指標もすべて目標を達成している。また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。	
	b. 一部なっていない		
	c. なっていない		
・事業効果をさらに上げる余地はないか。	a. 余地はない	県の中核館として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を計画的に今後も開催する。	
	■ b. 一部余地がある		
	c. 余地がある		
(その他の観点)			

8. 令和3年度事業の実施に向けた方向性

区 分	現状維持	■ 改善	移管	廃止
<p>(説明：令和3年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)</p> <p>○業界のガイドラインに沿って新型コロナウイルス感染症防止対策や三密解消を徹底した上で、入館者数の目標達成のため、スペイン美術を標榜する美術館としてヨーロッパの近代美術や現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、その他魅力的な展覧会を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、財務面についても運営費等の縮減や積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。</p> <p>○建設から15年以上を経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。</p> <p>○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は概ね好調であり、今後も県民の積極的な施設利用を促していく。</p> <p>○指定管理者の経営基盤を安定化させるため、カフェ事業について、コスト縮減を維持しながらも地域の食材に着目し、話題性のあるメニューを提供することで安定した黒字化を目指す。</p>				